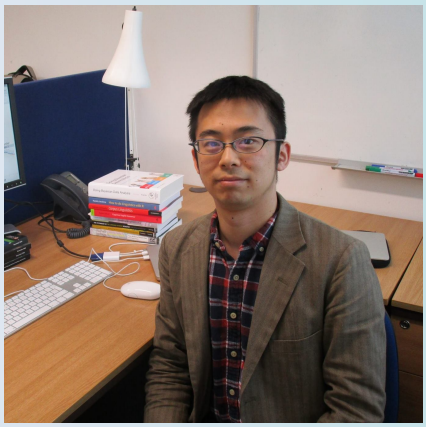
2021年度LET関西支部春季研究大会
オンライン開催(Zoom)
2021年6月27日（日）

基調講演

学習者コーパスに基づく L2英語文法形態素発達研究: 多要因分析と縦断的研究

村上　明先生
(University of Birmingham)

概要:
本講演では第二言語習得研究、とりわけ英語の文法形態素の発達研究において大規模学習者コーパスを活用する利点を示すと共に、それに関連する範囲での近年の学習者コーパス研究の動向を紹介する。その過程で講演者がこれまで行ってきた(1)文法形態素の習得順序、(2)頻度等のインプット要因が文法形態素の正確性に与える影響、(3)文法形態素の縦断的発達パターンやその個人差の研究について述べる。また、ノイズの多い大規模学習者コーパスを扱う際の手法面・分析面の課題についても検討する。



略歴：バーミンガム大学バーミンガムフェロー。専門は第二言語習得、コーパス言語学、計量データ分析。
ウェブサイト：http://www.akira-murakami.com/

主　催：外国語教育メディア学会（LET）関西支部
http://www.let-kansai.org/

参加費：無料
事前申し込みが必要です。申し込みはこちら
https://peatix.com/group/7562751/view

ワークショップ
小中高大の外国語学習の取り組みを促進するオンラインツールとその活用法

Engaging in fundamental online tools and approaches for improving teaching from elementary school to university

ウォレスタッド千鶴子先生（大阪市立大学 COIL推進室）

要旨：

コロナ禍の中、対面授業がオンライン型授業へ移行となり、教員の中にはテクノロジー関係は苦手だけれど、何とか導入しているという方も少なくないだろう。どのようなオンラインツールを使い、学習者の言語活動を活発化させれば良いか、また、能力の違う学習者にどのように対応したら良いか等、教員は日々模索しているのではないだろうか。

本ワークショップでは、教員にもどの年代の学習者にも使い易いと思われるオンラインツールとその活用法について、意見を交わし合いながら進めていく。また、オンライン同期型授業時間を最大限活用するための教授法の一つとしてＳＯＦＬＡ（同期型オンライン反転授業教授法）についても、紹介する。

経歴：Ph.D. in Foreign & Second Language Education. 日米において、幼児、小中高大・大学院等の外国語教育や教員養成に携わり、現在、大阪市立大学COIL推進室にて特任講師（在外）として務める。

注意❣：ワークショップは、**50名限定、大会参加申し込みと別に申し込みが必要です。**

シンポジウム
インプットとアウトプットの関係の再構築
―自然な英語の定着に向けて―

要旨：

言語習得過程におけるインプットとアウトプットの関係は、インプットからアウトプットへ移行するという見解が定着している。井狩（2021）は、インプットの過程で、理解するために気づきがたくさん起こり、予測につながる。その予測にはアウトプットの要素が含まれていると主張する。これに関連して、発表者は、実践授業での学習者のインプットとアウトプットの認知プロセスを見直し、学習者に向けられた理解可能なインプットに対し、気づきや検証のための脳内処理が生じ、その時点でアウトプットのような活性化状態が起こっていることを見出した。

本シンポジウムでは、幼児期の子どもへの英語絵本の読み聞かせ、ドラマを使った小学校でのワークシップ、多言語指導を受ける児童への英語クラスの3実践例を踏まえ、脳科学研究の視点から、アウトプットに焦点を当てることで見えてくる認知プロセスについて視聴者と共に再考する。

発表者経歴：

竹田里香：立命館大学外国語嘱託教員、自宅・公共施設・幼・小・中・高・大・成人の英語教育に24年携わる。

石田雅子：大阪市立大学大学院後期課程院生、小学校と大学の非常勤。幼・小・中・高・大の英語教育に27年携わる。

杉本孝美：大阪総合保育大学専任講師、自宅にて20年間児童英語講師、小学校英語教育に8年携わる。

井狩幸男：大阪市立大学名誉教授、市大を含む3つの大学と中・高で39年教鞭を執り、今春定年退職。専門は神経心理言語学。